２０１０年
７月20日(火)
第　１０８　号

狭山エリア新聞

【問合せ先】ＡＳＡ狭山
Tel：０４-２９５２-２２４６
【発行所】狭山エリア新聞編集室
Tel：０４９-２６５-１８８６
Fax：０４９-２６５-１８８７
【記事提供】狭山ＣＡＴＶ

「夜回り先生」講演会

６月27日（日）、狭山市立入間小学校を会場に「夜回り先生」として知られる水谷修先生の講演会が行われました。

講演を通じて、保護者、小・中学生、地域住民が青少年の非行や薬物汚染問題などの現状を知り、地域ぐるみで子育ての重要性について再認識することを目的に行われました。

講師の水谷修先生は１９５６年横浜市生まれ、上智大学文学部哲学科卒業後、高校の教員として勤務。教師生活のほとんどを少年少女の非行や薬物依存症問題に捧げ、「夜回り」と呼ばれる繁華街の深夜パトロールを行いながら多くの若者たちとふれあい、非行防止と更生に取り組んでいます。

テーマは「子育て目線を見直そう」。これまでの経験をもとに少年非行の実態や現代社会の問題点、子ども達の為に大人は何をすべきなのか等といった内容で話が進められました。

水谷さんは「子供は、大人から受ける優しさや愛が多いほど非行や犯罪から遠ざかる、親と先生には子どもたちに優しい言葉をかけ褒めてほしい」と訴えました。

聴講した人達からは「毎日の暮らしの中で、忙しいとついつい子どもにあたっている自分がいることに気づかされました。ちゃんと子どもと向き合ってほめてあげたいと思います」「私達が生きる上で大事なのは愛情溢れる人との絆なんだという事を痛感しました」等、今後の生活に生かしていきたいという意見が多くみられました。

この日会場には児童からお年寄りまで約４５０名が訪れました。

銀粘土細工作り

７月3日（土）、新狭山１・３丁目自治会館で銀粘土細工作りが行われました。

これは、新狭山地区まちづくり事業の一環として行われたもので、新狭山げんきっ子実行委員会が運営しています。体験活動を通じて心豊かで誰とでも仲良くできる子どもたちを育てることを目的にしており、放課後や休日を利用して体験活動や子ども向け講座を行っています。

今回は市内でシルバーアクセサリーの教室を開いている薄田さんが講師を務めました。

銀粘土細工とは、銀の粉に水とのりが混ざっている銀粘土を型にはめたり、模様を押しつけたりして形を作り水分がなくなるまで乾燥させ８００℃の炉で焼きます。焼き上がったものは表面に白い粉がついているのでワイヤーブラシで磨くことにより銀色になるというものです。

参加者は用意された型や模様の中から自分の好みのものを選び銀粘土を使ったストラップやキーホルダーを制作しました。

今回の講座には同自治会の30人の子どもと12人の保護者が参加しました。

関係者は「今年度新狭山げんきっ子では、講座を3回、イベントを2回開く予定で、次回は8月に行われる夏祭りに合わせてイベントを開催する予定です」と話しました。

第81回都市対抗野球大会へ出場 Honda硬式野球部が市長を表敬訪問

７月９日（金）、第81回都市対抗野球南関東大会を勝ち抜き、本戦である第81回都市対抗野球大会への出場が決まった、Ｈｏｎｄａ硬式野球部が市長を表敬訪問しました。

始めに、同野球部鎌田部長から本戦出場の報告があり「チームは非常にプレッシャーを感じておりました。８月の末には皆さんに応援もお願いしながら地域の代表として頑張ってきたいと思います」と話しました。

続いて、仲川狭山市長が「各チームが拮抗している中で本年も引き続いて７年連続の栄冠を得たということは狭山市にとっても非常にうれしいことでもあります」とお祝いと激励の言葉を述べました。

その後、都市対抗野球出場の推薦書への署名が行われました。

安藤監督が大会出場への決意表明として「東京ドームで狭山市民の皆さんと喜びと感動を分かち合えるように日々精進してきたいと思います。是非、球場の方へ応援に来ていただきたいと思っております」と話しました。

８月27日から12日間の日程で東京ドームを会場として開催される予定です。

武蔵野三十三観音霊場開創70周年

平成22年3月19日より11月18日まで、市内入間川にある慈眼寺、徳林寺で武蔵野三十三観音霊場開創70周年を記念した総開帳が催されています。

石神井公園から飯能市にむけて西武池袋線沿線に武蔵野観音霊場が33番あり、慈眼寺が武蔵野観音霊場16番、徳林寺は、第17番目の札所で、木造聖観音菩薩座像が本堂に奉られています。

３月から両札所には、個人・団体が参拝に訪れ、その数、把握しただけでも２０００人以上。この日も、群馬県高崎からの一行約30名が慈眼寺をまわり徳林寺を訪れました。

徳林寺には豪商綿貫家の墓所があり綿貫家が群馬の出身であることから墓を興味深げに見る姿も見られました。

８月7日には、観音霊場を巡るウォークラリーも予定されており、徳林寺のゴールを目指し、市内外から多くの人が訪れます。

木下航志チャリティーライブ ～さやまへ響け僕の歌～ふたたび

７月４日（日）、狭山市市民会館で「木下航志チャリティーライブ～さやまへ響け僕の歌～ふたたび」が開催されました。

このチャリティーライブは、昨年９月に同会館で開催しており、多くの反響があったため、今年も開催されました。

このライブは、主催者である下奥富在住菅原実千代さんが、多くの方に「明るく前向きに生きている木下さんの存在を知ってもらいたい」という思いから、チャリティーライブを企画。母親同士のネットワークで実行委員会を設立しました。スタッフは、子育ての合間を縫ってポスターのビラ作りや協賛金集めなどを行ったり、チャリティー箱の挿絵を子どもたちが描くなど、全員がボランティアで参加しています。

木下さんは生後１ヶ月で未熟児網膜症の為、全盲となりましたが、今では日本だけでなく海外でも活躍しているミュージシャンです。この日は新曲を含む14曲を披露。来場した４８６名は、木下さんの力強い歌声に耳を傾け、その感動を拍手にして木下さんに贈りました。

演奏終了後、スタッフの「狭山手をつなぐ親の会」の３名から花束、子どもスタッフ６名からは音の出る手作りレイが贈られると、会場からはあたたかい拍手が贈られました。

コンサート終了後、ホールでは木下さんが来場者に囲まれ握手する姿が見られ、子どもスタッフによる募金の呼びかけも行われました。

木下航志さんは「自分がライブで楽しんでいる部分を感じてほしい、夢とか持てなくて悩んでいる人もいると思いますが、何か自分が出来ることを１つでも見つけてもらえたらと思います。それはやっぱり『諦めない』ことも大事ですので自分のやりたいことを１つでも見つけて取り組んでもらえればと思います」と話しました。

前回のチャリティーライブでは、約１８６万円の収益金のうち経費を除いた８４０５１０円を狭山市福祉課及び社会福祉協議会に寄付しており、今回の収益も市の社会福祉関係に寄付することになっています。